



日本病院薬剤師会 Japanese Society of Hospital Pharmacists

# 病院薬剤師向け 生成AI利活用ガイドンス

業務効率化と患者安全を実現する  
生成AIの適切な利用

📅 2026年2月18日版

🏛️ 日本病院薬剤師会 医療DX対応検討特別委員会

Created with Support from Perplexity Pro and Genspark Plus

Generative AI

For Hospital Pharmacist



# 目次

- 🚩 本ガイドスの目的 … p1
- ⚙️ 生成AIの特徴と病院薬剤師業務における利活用の可能性 … p2
- ⚠️ 生成AI利用時の主要なリスク … p3
- 📢 病院薬剤師が生成AIを活用する際に注意すべき基本原則 … p4
- 🏢 組織が講じるべき対策 … p5
- 🎯 本ガイドスの利用範囲 … p6
- 👍 病院薬剤師業務における活用事例
  - ☑️ 活用事例1：服薬指導説明文の作成支援 … p7
  - ☑️ 活用事例2：医薬品情報収集・整理 … p8
  - ☑️ 活用事例3：相互作用・禁忌チェック支援 … p9
  - ☑️ 活用事例4：患者フォローアップ・副作用モニタリング支援 … p10
  - ☑️ 活用事例5：処方提案・処方変更提案支援 … p11
  - ☑️ 活用事例6：添付文書・ガイドラインの迅速検索 … p12
  - ☑️ 活用事例7：医療安全・インシデント分析支援 … p13
  - ☑️ 活用事例8：教育・研修資料作成支援 … p14
- ☰ 導入フェーズと推奨順序 … p15
- 🗣️ 組織導入の際の重要ポイント … p16
- ⚖️ 生成AI利用時の留意点
  - ☑️ 透明性確保と患者への対応 … p17
  - ☑️ 著作権保護への対応 … p18
  - ☑️ セキュリティと個人情報保護 … p19
  - ☑️ 正確性確保の実務的方法 … p20
  - ☑️ 禁止事項と注意事項 … p21
- 🛡️ トラブルシューティング … p22
- 👥 総括（運用と展望）
  - ☑️ 期待される有用性と成功事例 … p23
  - ☑️ 研修と継続的改善 … p24
  - ☑️ 今後の展望 … p25
  - ☑️ まとめ … p26
- 📖 参考資料と関連リソース … p27

# 本ガイドンスの目的



## 策定の背景

- ▶ 病院薬剤部門では働き方改革や医療人材不足など、解決すべき多くの課題に直面している現状がある
- ▶ 生成AIは近年、非常に精度向上がみられ、業務効率化および医療サービスの質向上を支援する極めて有効なツールとして期待されている
- ▶ 一方で、リスクも存在するため、病院薬剤師の業務特性に適した実践的なガイドンスの整備が必要不可欠






## 本ガイドンスが対象とするもの

- ✓ 対象ユーザー 生成AIを利用する病院薬剤師
- ✓ 対象業務 実際の病院薬剤師業務における各種業務（患者指導、DI業務、処方監査など）
- ✓ 対象サービス 医療機関で利用可能な生成AIサービス全般



## 本ガイドンスの対象者

-  病院薬剤師  
一般の薬剤師および薬剤部門管理者を含む、現場で実際に活用する方
-  医療機関の管理者  
生成AIの導入・運用ルール策定を検討している経営層や部門の管理者
-  薬剤師や薬学生の実務教育に携わる指導者  
新人教育や実務実習を担当し、AI活用リテラシー教育を行う方

# 生成AIの特徴と病院薬剤師業務における利活用の可能性



## 生成AIとは

- ▶ プロンプト（指示文）を入力することで、文章・画像・データなどを新たに生成するAIの総称
- ▶ 学習データに基づいて、確率的に「次に来る言葉や内容」を予測しコンテンツを生成する
- ▶ 真の意味理解ではなく、膨大なデータから得られた統計的関係性に基づく処理を行う
- ▶ 多様な用途に対応可能であり、従来の特定制型AIとは汎用性が大きく異なる



## 病院薬剤師業務における活用可能性

- ✔ 業務効率化  
文書作成や情報検索などの定型業務を自動化し、大幅な時間短縮を実現
- ✔ 医療の質向上  
膨大な薬学・医学情報に基づく精度の高い情報提供と、臨床判断の支援
- ✔ 医療費削減  
業務プロセスの最適化と合理化によるコスト抑制効果

# 生成AI利用時の主要なリスク



## 正確性・信頼性

誤情報（ハルシネーション）や虚偽を含む出力が生成される可能性



## プライバシー

入力データによる個人情報の漏えい、個人情報保護法違反のリスク



## 著作権

既存著作物への侵害、他者の権利を含むコンテンツの無断生成・利用



## セキュリティ

機密データの漏えい、不正アクセス、マルウェア等のセキュリティ脅威



## バイアス・公平性

学習データに起因する差別的表現、偏見の助長、公平性の欠如



## 透明性・説明責任

AIの使用状況の不適切な隠蔽、出力根拠の不明確さ（ブラックボックス問題）



## その他関連法令の遵守

「医師法」、「医療法」、「薬剤師法」、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」（薬機法）等の医療関連法規への違反リスク  
※特に“診断”や“薬物療法”に関する判断や行動、および未承認医薬品に関する情報検索の利用においては注意が必要

# 病院薬剤師が生成AIを活用する際に注意すべき基本原則

01



## 利用可能性の確認

✓ 所属機関で正式に承認・利用可能と判断された生成AIサービスか確認する

02



## 法令遵守の確認

✓ 医師法、薬剤師法、医療法、薬機法等への違反がないか利用前に確認する

03



## 正確性の検証

✓ 生成AIの出力内容が正しいことを、信頼できる情報源を用いて自ら確認する

04



## 著作権の保護

✓ 既存著作物との類似性を確認し、権利侵害にならないよう配慮する

05



## 透明性の確保

✓ 出力をそのまま利用する場合等は、AI使用の事実を通知・明示する

# 組織が講じるべき対策



## セキュリティ要件

- ✓ セキュリティが確保されていること  
(セキュアなネットワーク環境等)
- ✓ 入力データがAIの再学習に利用されない  
設定になっていること
- ✓ 薬学的・医学的判断に利用する場合は  
薬事承認の取得有無を確認すること



## 利用ルール

- ⓘ 法令違反・不適正利用の禁止を明記
- 📢 利用者の注意点・セキュリティポリシー  
の周知徹底
- 🔍 職員の誤用チェック（定期的な監査）と  
利用状況の把握








## 職員研修






- 🎓 生成AIの利用による便益とリスク等の  
基礎理解
- 📌 具体的活用事例別のリスクと対策の習得
- 📝 受講後の理解度テストと未受講者の  
フォローアップ

# 本ガイドンスの利用範囲

## ☑ 対象とする利用

-  カルテ等の文書の自動作成・予約システムへの自動入力支援
-  患者にとってわかりやすい薬物療法・治療計画の説明・表現の検討
-  患者フォローアップのスケジュール策定、メッセージ作成支援
-  医薬品情報の収集・整理・分析
-  職員および学生実習に対する研修・教育

## ⊗ 対象外とする利用

-  患者個人に対する診断や最適な薬物療法に関する意思決定
-  創薬支援や基礎薬学など研究開発目的での利用
-  研究の立案・データ収集・学会発表・論文投稿などの学術活動
-  薬剤師の自宅や患者居宅など医療機関外での生成AIを用いたサービス提供や業務利用
-  薬剤師個人の自己研鑽や資格取得に関する利用

# 活用事例 1：服薬指導説明文の作成支援

## 概要・活用場面

### 処方データから患者にわかりやすい説明文を自動生成

- 複雑な用法・用量（漸増・漸減、隔日投与など）に対する平易な言葉での説明
- 専門用語を患者の理解レベルに合わせた「易しい表現」へ変換
- 外国人患者対応のための多言語翻訳（英語、中国語、韓国語等）

想定キーワード

服薬指導

多言語対応

平易化

## 👍 有用性（効率化・質向上）

業務効率化：説明文作成時間を大幅削減し、対人業務へシフト

質の標準化：担当者による説明内容のばらつきを抑制し、統一性のある高品質な説明を提供

患者アウトカム：理解度向上によるアドヒアランス改善と患者満足度向上

## 🛡️ リスク・対策

正確性の確保：入力データの正確性を担保し、出力は必ず薬剤師が薬学的観点から確認・修正する

透明性の確保：患者に対し「AI支援により作成された文章」であることを通知・明示する

責任の所在：組織として「説明責任は薬剤師にある」旨のルールを規定し徹底する

## 活用事例 2：医薬品情報収集・整理

### 🔍 概要・活用場面

論文・製品情報・副作用情報から必要な情報を自動抽出・整理

- 新規医薬品採用時の資料作成支援、副作用情報の検索と整理
- 薬物相互作用情報の迅速な検索と整理
- 医師からの問い合わせに対する回答案のドラフト作成支援

想定キーワード

DI業務

情報収集

効率化

### 🕒 有用性（効率化・質向上・安全性）

業務効率化：情報収集・整理時間を削減し、DI業務を迅速化

医療の質向上：最新情報に基づく意思決定と、医師への的確な情報提供

安全性：正確な情報に基づく判断支援により医療安全が向上

### 🛡️ リスク・対策

正確性の検証：薬剤師が出力内容を必ず検証し、複数の情報源で裏付けを確認する

プライバシー保護：検索や整理の過程で患者個人を特定できる情報を入力しない

著作権への配慮：論文は公式サイトから直接取得し、権利処理や利用規約を確認する

# 活用事例3：相互作用・禁忌チェック支援

## 概要・活用場面

### 処方薬と患者保有薬（持参薬）から相互作用・禁忌を自動確認

- 入院患者の持参薬確認、重複投与の検出、ハイリスク薬の投与前確認
- 患者個別の腎機能・肝機能（eGFRやChild-Pugh分類）に基づく投与量の妥当性確認
- 禁忌事項（併用禁忌、既往歴禁忌、アレルギー禁忌等）のスクリーニング

想定キーワード

相互作用

禁忌チェック

腎・肝機能

## 有用性（効率化・安全性）

業務効率化：膨大な添付文書情報の処方確認時間を短縮し、チェック漏れを防止

安全性向上：有害事象（ADE）の予防、薬物療法の最適化による患者転帰の改善

ヒューマンエラー防止：多剤併用時の複雑な相互作用見落としを防ぐダブルチェック機能

## リスク・対策

正確性の限界：生成AIの出力はあくまで「参考情報」と位置づけ、薬剤師が最終確認を行う

検証プロセス：添付文書やIF等の一次情報源で裏付けを確認。ハイリスク薬は必ず個別確認

法令遵守：AIの出力をそのまま医師への疑義照会の回答に利用せず、薬剤師の判断として伝える

# 活用事例 4 : 患者フォローアップ・副作用モニタリング支援

## 📅 概要・活用場面

### 副作用モニタリングとメッセージを自動作成

- 特定医薬品（抗がん剤等）使用患者への定期的な副作用確認メッセージの作成
- 生活習慣病患者への生活習慣改善指導や慢性疾患自己管理支援メッセージの作成
- 退院患者への継続的な服薬フォローアップ支援メッセージの作成

想定キーワード

フォローアップ

副作用確認

継続支援

## 👍 有用性（効率化・質向上）

計画立案の効率化：個別の計画作成時間を削減し、対応の質を均てん化

早期発見・対応：適切なタイミングでの確認による副作用の早期発見

アドヒアランス向上：継続的な関わりによる治療脱落防止と自己管理支援

## 🛡️ リスク・対策

内容の正確性：メッセージは必ず医療従事者が確認・修正後に送信する

プライバシー保護：メッセージ内に患者の個人識別情報を含めない

主体性の明示：AI生成した場合でもその内容を確認した上で、最終的には「医療従事者」として責任を持つ

# 活用事例 5 : 処方提案・処方変更提案支援

## 概要・活用場面

患者の臨床検査値・臨床情報から薬学的根拠に基づく処方提案を支援

- ハイリスク薬の投与量調整、腎機能・肝機能低下患者への投与量最適化案の提示
- 血中薬物濃度モニタリング（TDM）結果に基づく精密な投与設計提案の提示
- 最新のエビデンス（EBM）に基づいた具体的な処方変更案の提示

想定キーワード

処方設計

TDM

適正使用

## 有用性（効率化・質向上）

業務効率化：複雑な投与量計算の自動化、薬学的・医学的根拠情報の迅速な検索

質の向上：薬物療法の最適化、有害事象の予防、患者転帰の改善

安全確保：見落としリスクの低減と標準化された投与設計

## リスク・対策

正確性の位置づけ：AIの提案はあくまで「参考情報」として、内容を精査した上で医師に提示する

専門的判断：個別患者の背景を踏まえ、薬剤師が最終的に判断する

根拠とルール：薬学的・医学的根拠情報を明示し、薬剤師等の医療従事者によるダブルチェックなど運用規定を定める（異なる生成AIの利用も考慮する）

# 活用事例 6 : 添付文書・ガイドラインの迅速検索

## 🔍 概要・活用場面

### 複雑な添付文書・治療ガイドラインから必要な情報を自動抽出・要約

- 医師からの医薬品使用問い合わせ（用法用量、適応外使用の情報など）への迅速な対応
- 患者集団別（高齢者、妊娠中、腎機能低下等）の注意点の抽出
- 学会ガイドラインの最新治療推奨・エビデンスレベルの確認

想定キーワード

DI業務

情報検索

ガイドライン

## ⚡ 有用性（効率化・質向上）

業務効率化：情報検索・要約にかかる時間を大幅に短縮し、即応性を向上

的確な情報提供：膨大な情報から必要な項目を漏れなく抽出し、医師へ迅速に提示

安全性向上：最新のエビデンスや警告情報へのアクセスを容易にし、医薬品安全管理に寄与

## 🛡️ リスク・対策

正確性の検証：AIの自動抽出結果は必ず薬剤師が原典と照合・確認した後に提示する

最新性の確保：参照する情報源が最新版（改訂版）であるかを常に確認する

著作権への配慮：著作権に配慮した利用を行い、信頼できる複数の情報源で検証する

# 活用事例 7 : 医療安全・インシデント分析支援

## 📌 概要・活用場面

### 医薬品関連インシデント報告書から事例分類・分析内容を自動整理

- インシデント報告内容の自動分類（原因別・パターン別）
- トレンド分析支援（頻出事象抽出）と対策立案のための参考情報提供
- 他機関事例との類似性検索によるリスク予測と予防策の検討

想定キーワード

インシデント分析

トレンド抽出

リスク管理

## 👍 有用性（効率化・安全性）

業務効率化：インシデント分析時間を短縮し、対策立案に注力

安全性強化：トレンドの可視化による事象重大化の防止と早期介入

組織改善：データに基づく継続的な医療安全体制の強化と改善促進

## 🛡️ リスク・対策

プライバシー保護：入力時に患者氏名等の個人識別情報を確実にマスク/削除する

正確性の検証：AIによる分析結果は必ず医薬品安全に関わる薬剤師あるいは医療安全管理者が検証する

セキュリティ：セキュリティの高いネットワーク and/or 施設の承認を受けたAIを使用する

# 活用事例 8 : 教育・研修資料作成支援

## 🎓 概要・活用場面

院内研修・薬学生の実務実習向けの教育資料、事例シナリオを自動生成

- 新人薬剤師向けの学習教材作成、薬学生向け実習マニュアル作成支援
- 院内研修用症例シナリオ作成（疾患別、医薬品別など）
- 医師・看護師向けの医薬品情報資料作成

想定キーワード

教育資料

シナリオ作成

人材育成

## 👍 有用性（効率化・質向上）

効率化：資料作成時間を大幅短縮し、指導業務へ注力可能に

質の標準化：担当者の知識・能力によらず、一定水準以上の教育教材を提供し、教育のばらつきを解消

人材育成：より多くの実習生・新人に対応可能となり、教育内容の質も向上

## 🛡️ リスク・対策

正確性の確保：薬学的・医学的内容は必ず指導者（医療者）が検証する

著作権：既存教材の無断引用にならないよう、生成内容の独自性を確認する

倫理・プライバシー：症例シナリオ等には実患者情報を含めず、架空事例として作成する

# 導入フェーズと推奨順序

組織の習熟度とリスク管理体制に応じた3段階の段階的導入モデル

01

## 導入初期

難易度：低

すぐに開始可能・低リスク

🔍 医薬品情報収集・整理

📄 添付文書・GL検索支援

👤 教育・研修資料作成

02

## 安定運用後

難易度：中

標準的な導入・管理下で実施

📄 服薬指導説明文作成

👤 患者フォローアップ支援

🛡️ インシデント分析支援

03

## 高度な活用

難易度：高

十分な経験後・高度な判断

⚠️ 相互作用・禁忌チェック

📄 処方提案・変更提案支援

📌 薬学的判断を伴うため慎重な運用が必要

# 組織導入の際の重要ポイント

## 1. サービス選定



- セキュリティが確保されているか（暗号化、アクセス制御）
- 入力データがAIの再学習に使用されない設定（オプトアウト）か
- 医療情報取扱いに関するガイドラインに対応しているか

## 2. 利用ルールの規定



- 禁止事項の明記（法令違反、目的外利用等）
- 利用者の注意点・セキュリティポリシーの周知徹底
- 定期的な利用監査とコンプライアンスチェック

## 3. 職員研修の実施



- 本ガイダンスに基づく基礎研修を実施
- 具体的な活用事例別の実践的研修
- 受講後の理解度テストと定期的なフォローアップ

## 4. 利用状況管理



- どの部門でどのような用途で利用されているかの把握
- 問題発生時の報告・相談体制の整備
- 利用効果の測定と改善プロセスの確立

# 透明性確保と患者への対応



## 1. 患者への説明

- 生成AIが使用されていることを明示
- AIの役割について明確に説明（補助ツールであること）
- AIが100%正確ではないことを伝える



## 2. 医療従事者への周知

- 医師・看護師等へAI使用ユースケースを共有
- AI出力はあくまで「参考情報」であることを徹底
- 最終判断と責任は医療従事者にあることを確認



## 3. ドキュメント作成時の記載例

- 生成AIを利用して作成した文書には、その旨を記載して透明性を確保します。
- 患者が誤解しないよう、表現には十分注意を払います。

### 【記載例A：説明文への付記】

“本説明文はAI支援で作成されています。”

### 【記載例B：情報提供時の注記】

“この情報はAI支援による参考情報です。必ず医療従事者にご相談ください。”

# 著作権保護への対応



## 1. プロンプト（指示文・入力文）設計時の注意

- 既存の著作物に類似する文章・イラストの生成を指示しない
- 特定の作家や著名な著作物の文体・画風を模倣することを避ける
- 「〇〇風に」といった具体的な固有名詞を含む指示は慎重に行う



## 2. 出力結果の確認

- 既存の著作物等に類似していないか、薬剤師が責任を持って確認
- 類似性が疑われる場合は使用せず、修正するか作成し直す
- 必要に応じて類似性チェックツール等の活用も検討する



## 3. 入力情報の管理

- 他人の著作物をプロンプトに入力する場合は必要な権利処理を確認
- 添付文書など信頼できる公開データベースからの引用を優先
- 私的利用の範囲を超えた複製・翻案にならないよう注意



## 4. 参考リソース

- 文化庁『AIと著作権に関するチェックリスト&ガイダンス』
- デジタル庁『テキスト生成AI利活用ガイドブック』
- 最新の法改正や公式ガイドラインを定期的に参照すること

# セキュリティと個人情報保護



## 利用環境のセキュリティ

- セキュリティの高いネットワークの確保
- サーバが国内法の適用を受ける場所に設置
- 定期的なセキュリティ監査の実施



## 個人情報の取扱

- 入力時に患者氏名等を削除・マスク
- 医療情報は最小限の入力に限定
- 機微情報（遺伝情報等）は入力しない



## データ削除

- 契約終了時に提供データが削除されることを確認
- 施設個別の情報を追加学習としてAIに取り込ませる場合の安全措置

# 正確性確保の実務的方法

## STEP 01



### 入力段階

- ✓ 入力データの正確性を確認してから入力する
- ✓ 最新の情報を参照し、古いデータを使用しない
- ✓ 曖昧な指示を避け、具体的なプロンプト（指示文）を入力する

## STEP 02



### 出力検証

- ✓ 複数の信頼できる情報源（添付文書、ガイドライン等）で照合
- ✓ 薬学的・医学的根拠の有無と論理的整合性を確認
- ✓ 矛盾や不合理な記述がないかチェック

## STEP 03



### 定期確認

- ✓ 生成AIの精度が変わっていないか定期的に検証
- ✓ 新規医薬品や最新ガイドラインに対応できているか確認
- ✓ ハルシネーション（誤った出力）の傾向変化を監視

## STEP 04



### 高リスク業務対応

- ✓ AI出力+複数の医療従事者によるダブルチェックを実施
- ✓ 患者への直接提供は避け、必ず医療従事者を經由する
- ✓ 判断の根拠となる原典を必ず明示する

# 注意事項と禁止事項

## 禁止事項

(厳格に遵守)

- 薬事承認を得ていない生成AIで薬学的判断支援を行う
- 患者氏名等の個人識別情報を入力する
- 医師・薬剤師等の確認なしにAI出力を患者に直接提供する
- セキュアでないネットワークでの医療情報の入力
- 違法行為や倫理に反する目的での利用

## 注意事項

(利用前にチェック)

- 所属機関で利用可能と承認された生成AIか確認したか
- 用途が医師法等の関連法令に違反していないか
- 入力情報に個人情報が含まれていないか再確認したか
- 出力結果を複数の情報源で検証したか
- 著作権の問題がないか（既存著作物との類似性等）
- 必要な透明性対応（AI使用の明示等）が完了したか

# トラブルシューティング

Q1



AI出力に重大な誤った情報が含まれていた場合

📄 推奨される対応アクション

医療従事者（管理者）  
へ即座に報告



サービス提供者に  
問題を相談



運用ルールの  
改善・見直し



必要に応じ  
インシデント報告

Q2



患者から「なぜAIが使われているのか」と聞かれた

💬 説明のポイント



あくまで  
「判断支援ツール」



最終判断は必ず  
「医療従事者」が行う



患者さんの「安全」のために  
ダブルチェック等で活用

Q3



セキュリティ侵害の可能性を検知した

⚡ 緊急対応フロー

直ちに  
利用中止



IT部門・  
医療安全部へ報告



インシデント  
報告書作成



患者への対応を  
協議・検討

# 期待される有用性と成功事例



## 大規模病院での導入

**i** 各部署への専任配置が可能な病院の薬剤部門

### ≡ 導入業務

医薬品情報収集

服薬指導文作成

添付文書検索

### ✔ 導入成果



DI業務

医薬品情報に関する収集・整理時間の**大幅な削減**



指導記録、会議資料、議事録作成

文書作成時間の**短縮・効率化**



医師からの評価

情報の質向上により**信頼度向上**



## 中小病院での導入

**i** 薬剤部員が少ない病院の薬剤部門

### ≡ 導入業務

教育資料作成

インシデント分析

### ✔ 導入成果



新人教育

資料作成等の**準備時間削減**



インシデント分析

分析作業の**迅速化**を実現



人材活用

少人数でも**質の高い**業務体制へ

# 研修と継続的改善

## 初期研修項目

- 1 生成AIの基礎知識
- 2 主要リスクと対策
- 3 利用者の注意点
- 4 ユースケース別研修
- 5 実践ワークショップ

## 継続的改善

- ✓ 定期的な研修：年2回以上の実施を推奨
- ✓ 追加研修の実施：新しい活用事例の導入時
- ✓ トラブル事例の共有：ヒヤリハット事例の分析と改善
- ✓ 法令・ガイドライン対応：制度変更に伴うルールの更新



技術の進歩に合わせて研修内容も随時アップデートが必要です

## 評価方法

- ✓ 薬剤部門職員の研修受講率
- ✓ 理解度確認テストの実施
- ✓ 口頭試問の実施




### その他の評価指標

- ✓ 実務での実施状況確認
- ✓ 誤用・インシデント発生率
- ✓ 問題発生時の振り返り
- ✓ 未受講者へのフォロー率

# 今後の展望






## 生成AIの普及予測

-  **業務効率化の進行**  
定型業務の自動化が進み、対人業務へシフトする時間が拡大
-  **高度な判断支援の実現**  
専門的な薬学知識に基づく、より精度の高い診療支援が可能に
-  **データ分析機能の向上**  
ビッグデータを活用した個別化医療や創薬研究への貢献






## 課題と対応

-  **継続的なガイドライン改訂**  
技術の急速な進歩に合わせた、柔軟かつ迅速なルール更新
-  **知識・スキルの維持向上**  
AIを使いこなすためのリテラシー教育と専門性の深化
-  **政府方針への対応**  
法規制や倫理指針の変更を注視し、組織全体で適切に対応



## 病院薬剤師に求められる役割

-  **臨床的思考力の維持**  
AIに頼りきりにならず、自らの知識と経験に基づく思考力を磨く
-  **患者安全の最後の砦**  
AIの出力を鵜呑みにせず、専門家として最終的な安全確認を行う
-  **信頼構築**  
生成AI活用により効率化できた時間を用いて、他職種や患者とのコミュニケーションを通じ、信頼関係を築く

# まとめ

1



## 生成AIは 強力なツール

適切に使用すれば、業務効率化と医療の質向上を同時に実現できる有効な手段です。

2

## リスク管理が 必須条件

正確性の検証、プライバシー保護、著作権保護など、リスクへの対策が不可欠です。

3



## 人間の判断が 最優先

AI出力はあくまで参考情報。最終的な薬学的判断は必ず医療従事者が行います。

4



## 組織的対応が 重要

個人のリテラシー任せにせず、セキュリティ確保、研修実施、ルール規定を組織として整備します。

5



## 継続的な 改善と対応

技術の急速な発展と法令・ガイドライン等の変化に追随し、運用を継続的に見直します。

# 参考資料と関連リソース

## 基盤となるガイドライン

- 医療・ヘルスケア分野における生成AI利用ガイドライン（第2版）  
医療AIプラットフォーム技術研究組合 | 2025年7月
- 医療情報システムの安全管理に関するガイドライン 第6.0版  
厚生労働省 | 2023年5月
- 医療情報を取り扱う情報システム・サービスの提供事業者における安全管理ガイドライン 第2.0版  
経済産業省・総務省 | 2025年3月

**i** 本ガイダンスは、上記の上位規定および関連法令に準拠して策定されています。運用の際は必ず最新の公的ガイドライン等を確認してください。

## AI活用関連

- テキスト生成AI活用におけるリスクへの対策ガイドブック  
デジタル庁 | 2024年6月
- AIと著作権に関するチェックリスト&ガイダンス  
文化庁 | 2024年7月
- AIと著作権に関する考え方について  
文化審議会著作権分科会 | 2024年3月

※2026年1月時点の情報  
(本領域は発展・情報更新が著しいため、最新の情報を参考にしてください)